

2022年室内環境学会学術大会 大会長奨励賞 優秀口頭発表賞 受賞の言葉

C-02 高齢者の環境調節行動を促す介入方法の検討  
-ナッジを活用した行動変容に着目して-

東実千代<sup>1)</sup>, 久保博子<sup>2)</sup>, 佐々尚美<sup>3)</sup>, 城戸千晶<sup>2)</sup>, 大友絵利香<sup>1)</sup>, 小浜朋子<sup>4)</sup>, 磯田憲生<sup>2)</sup>

1) 畿央大学 2) 奈良女子大学 3) 武庫川女子大学 4) 静岡文化芸術大学

このたび、2022年室内環境学会学術大会で発表いたしました“高齢者の環境調節行動を促す介入方法の検討 -ナッジを活用した行動変容に着目して-”にて大会長奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。

熱中症という言葉が社会的にまだ十分に認知されていなかった約10年前、本研究の発想の基盤となる生活実態調査を開始しました。高齢者の生活行動および室内温熱環境や皮膚温変動のデータを分析した結果、客観的な指標に基づく自発的な環境調節行動の重要性を確信するに至り、情報提供や温度計の配布等の介入を行うものの、意識や行動に変化が起きにくい層の存在が明らかとなりました。そこで着目した方法が「温熱環境の可視化」で、2016年から可視化ツールの試作を繰り返して検討を重ねてまいりました。今回報告したツールは、変色精度を向上させ、設置方法に多様性を持たせたことが特徴で、一連の介入方法の立案と妥当性の検証に行動経済学分野のNudge理論を活用しました。これは、肘で軽くつつくように、本人にとって望ましい選択を自発的に行えるように後押しするアプローチで、多様な分野で応用されています。ツールの使用は暑熱環境や熱中症に対する意識を高め、室温調節行動等の変化に寄与しましたが、これを継続、定着させるには、調査結果の分析を深めて更なる展開を模索する必要があります。

最後になりましたが、コロナ禍という制限のなかで研究にご協力頂いた被験者の皆様、研究遂行にあたり貴重なご助言を頂きました方々、本研究をご評価頂いた大会関連の先生方に心より感謝申し上げます。

……著者データとプロフィール……



**東実千代**  
(あずまみちよ)  
畿央大学  
健康科学部人間環境  
デザイン学科  
教授  
博士(学術)



**久保博子**  
(くぼひろこ)  
奈良女子大学研究院工  
学系  
工学部  
教授  
博士(学術)



**佐々尚美**  
(さっさなおみ)  
武庫川女子大学  
生活環境学部生活環  
境学科  
准教授  
博士(学術)



**城戸千晶**  
(きどちあき)  
奈良女子大学  
現：(株)デンソーエ  
アクール  
博士(生活工学)



**大友絵利香**  
(おおともえりか)  
畿央大学  
健康科学部看護医療学  
科  
准教授  
修士(看護学)



**小浜朋子**  
(おばまともこ)  
静岡文化芸術大学  
デザイン学科  
教授  
博士(工学)



**磯田憲生**  
(いそだのりお)  
奈良女子大学  
名誉教授  
博士(工学)